

普及活動情勢報告（平成30年3月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

ミョウガの栽培技術の向上を支援 ～現地検討会を開催～



測定装置でハウス内環境を確認する農家

2月5日～2月27日にかけてJ A土佐くろしおミョウガ部会を対象に現地検討会を4地区5ほ場で開催し129名の生産者が参加しました。

農業改良普及課から、ハウスの温湿度調査データや細霧システム導入ハウスの収量データからミョウガにおける湿度管理の重要性について報告しました。また、適正に湿度を管理するためにも、環境測定機器の導入の必要性と補助事業の活用について情報提供を行いました。細霧システムの導入に興味を示す農家や検討会のハウスに設置してある測定装置を見ながら情報交換をする農家も見られました。農業改良普及課は、今後もJ Aと連携して、部会への情報提供を行い栽培技術の向上を支援していきます。

施肥及び病害虫防除の時期と適期を周知 ～J A津野山ユズ部会総会～



部会長挨拶

2月28日、J A津野山営農センター輝大会議室において平成29年度ユズ部会総会が行われ、生産者（22名）やJ A、町役場の計30名が参加しました。

農業改良普及課からは、施肥と病害虫防除適期の周知を中心に栽培講習を行いました。生産者からは「資料にある使用資材はJ A馬路村が使用しているものなのか?」、「発酵ケイフンの散布間隔は?」といった活発な意見が出され、肥培管理についての理解が深まりました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携しながら高品質・安定生産を支援していきます。

生育状況をみんなで確認！意見交換！ ～J A津野山加工用ワサビ現地検討会～



意見交換して栽培管理に活かす生産者

3月5日、津野町の加工用ワサビ生産者方のハウスにおいて平成30年産加工用ワサビ現地検討会が行われ、生産者6名（4戸）とJ A津野山（3名）が参加しました。

農業改良普及課からは、2戸で実施している生育調査結果を中心に説明を行いました。特に今冬の低温傾向が温度データに表れており、生産者からは「低温傾向がよく分かる」「葉がおわんになるのは寒さなのか」といった声が聞かれました。

農業改良普及課は、3月に実施される取引先との販売会議を踏まえて、平成30年産の円滑な出荷開始に向けた生産者への情報提供・支援をJ A津野山と連携していきます。

地域の意見を普及活動に活かそう！！～普及推進協議会の開催～



地域の意見を普及に反映

2月28日農家、関係機関15名の参加を得て、第2回須崎地域農業改良普及推進協議会が開催されました。平成29年度の活動実績について説明を行うとともに、今回は次年度のGAPの推進をテーマに構成員の皆様にご意見をいただきました。委員からは、「チェックシートが出てくるのを待ってる。早く作ってほしい」「高齢の方へのやり方を考えないと」等積極的な意見が出ました。

GAPの推進は次年度からの重点課題でもあり、農業改良普及課は、今回の意見を基に普及活動に活かしていきます。

キュウリの安定生産に向けて ～現地検討会を開催～



説明を聞く生産者

3月9日、須崎市内現地圃場でキュウリの生産者15名が参加し、IPM技術の現地検討会を開催しました。防虫ネットの害虫防止侵入防止効果について青色粘着版トラップ調査を用いた実証試験やリモニカスカブリダニ等の天敵利用実証試験の途中経過について説明しました。

生産者に0.3mm目の防虫ネットをサイドと天窓へ張ることで、アザミウマ類の侵入を96～100%防止できることが理解されました。生産者から「自分のほ場でも天敵の試験をしてほしい」という声も聞こえ、天敵利用に対する関心が高まりつつあります。

農業改良普及課は、今後もキュウリの安定生産に向けて、IPM技術や環境制御技術について、現地検討会や勉強会を通じて普及に取り組み、農家のレベルアップに繋げていきます。

省力技術となるか?!～インゲン現地検討会の開催～



1条植えはどうやっているの?

2月26日に須崎市のほ場でインゲン現地検討会を開催し、生産者6名が参加しました。ほ場では1条植えを行っており、慣行栽培である2条植えに比べ収穫労力などが省力できると期待されています。

農業改良普及課はJAと協力して、1条植えの栽植密度や実施しているほ場農家から感想を述べてもらいました。また天敵リモニカスカブリダニを利用した防除試験の中間報告を行いました。参加者からは1条植えの仕立てを観察する場面や、「天敵の特徴は?」といった質問など関心を持った様子がみられました。

インゲン栽培では作業の省力化が望まれており、今後も農業改良普及課は、省力技術について情報収集・情報提供を行っていきます。

GAPを意識して！～インゲン中間検討会～



栽培後半もがんばろう！

2月27日にJA土佐くろしお販売課にてインゲン部会中間検討会が開催され、生産者15名が参加しました。

農業改良普及課からはGAPの取り組みへの理解を深めるために、どうして取り組むのか、どのような項目があるかといった内容について情報提供を行いました。以前からJA版の点検シートに取り組んでいる農家から「振り返ることで次作に役立てているよ」といった声も聞かれ、GAPへの理解が深まりました。農業改良普及課は、今後も関係機関と協力してGAPの推進を図り、よりよい農業生産への支援を行っていきます。

黄化えそ病・害虫対策！～キュウリ中間検討会～



中間検討会の様子

3月6日にJA土佐くろしお販売課にてキュウリ部会中間検討会が開催され、生産者42名が参加しました。

農業改良普及課はJAと協力して、栽培で問題となる黄化えそ病・害虫対策につながることから、0.3mm目合いの防虫ネットの展開による高い害虫侵入防止効果やほ場内の除草、発病株の早期発見・早期引き抜き除去の必要性を周知しました。参加者からは「発病株は早く抜かないとどうしようもないね」といった声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と協力して安定した収量・品質の向上に向けた支援を行っていきます。

集落営農組織発展の方式を探る！～集落営農塾先進地視察研修～



(農)はぎめの施設を視察

3月13日に集落営農塾先進地視察研修として愛媛県の2法人を視察し管内の集落営農組織代表者7名と関係機関2名が参加しました。

農業改良普及課は視察先として、集落1農場型で地域を守る(農)はぎめと担い手の法人に農地を集積しそこが経営を行う(有)豆道楽を選定し、農地の利用方法や後継者の確保・育成について研修しました。

参加者からは「組織経営の参考になる話が聞けた」といった声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と協力して集落営農組織の発展に向けた支援を行っていきます。